

# 鉄道ピクトリアル

2008年1月号増刊 Vol.58 No.1 通巻No.799

## <特集> 東武鉄道

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット：松本一雄

## 今月の話題

■表 紙 100系「スペーシア」とJR東日本485系 ..... 燃田 健  
小佐越 2007-11-17  
キヤノンEOS40D EF24-105mmF4.0L IS タイム1/500 絞り f6.3

## ■カラ一

関東に東武あり（1～8, 173～175ページ）  
..... 大沼一英・河原慶明・小野田恵一・杉崎健一  
遠坂 拓・早川昭文・柳沢直樹・山口大助  
東武の「新」相直シーン（176～177ページ）  
..... 佐藤利生・杉崎健一・柳沢直樹・河原慶明・大沼一英  
懐想の東武カラー（178～179ページ）鶴田 裕・伊藤俊郎・根本幸男  
昭和20年代末期の東武電車沿線案内図から（180～181ページ）  
..... 坂戸直和・坂戸宏太

## ■グラフ

絵葉書が伝える東武鉄道旧景 ..... 所蔵と解説：白土貞夫... 77  
東武鉄道 思い出の風景 ..... 構成：編集部... 82  
業平橋ものがたり ..... 花上嘉成ほか... 88  
戦後の東武特急車三代 ..... 柳江耕二ほか... 90  
東武電車あの日あの時 会津へ直通した日 ..... 鈴木 悅一... 92  
東武東上線スナップ—1957年5月の川越 ..... 田尻 弘行... 182  
モハ63形と戦災復旧省電が残した功績 ..... 久保 敏... 184  
東武8000系 MINI STORY ..... 三神康彦・久保 敏ほか... 188  
東武鉄道の旧形車 ..... 構成：編集部... 192

## ■本文

今月の話題：東武鉄道	編集部	9
総説：東武鉄道	東武鉄道株経営企画部	10
東武鉄道の鉄道事業を語る	柴田浩一郎・今城光英	18
営業設備とサービス	東武鉄道営業部	24
近年における観光輸送の展開	東武鉄道営業部	30
輸送と運転 近年の動向	東武鉄道営運輸部・東上業務部	36
車両総説	東武鉄道車両部	48
南栗橋工場の設備と業務	東武鉄道車両部	54
検修区(車両基地)の設備と業務体制	東武鉄道車両部	62
駅、乗務員区のあらまし	東武鉄道営業部	68
線路施設と保線	東武鉄道営業部	72
野田線の複線化と輸送改善への取り組み	東武鉄道営業部	93
信号保安設備の概要	東武鉄道電気部	96
通信設備の概要	東武鉄道電気部	101
電力設備の概要	東武鉄道電気部	106
東武鉄道の輸送・運転業務を振り返って	狩野 義也	110
西新井工場と私の昔物語り	諷訪部直方	121
業平橋ものがたり	花上 嘉成	125
東武鉄道の旧形電車回顧	青木 栄一	135
回想の東武ロマンスカー	金野 智	144
東武特急スチュワーデス物語	鈴木 悅一	149
薄命な総武鉄道海神線を探る	白土 貞夫	154
旧版地形図の幾何補正による東武借宿線位置の同定	小野田恵一・林 信宏	159
東武大谷線研究序説	大石 隆・塚越哲男	162
東京市の静脈物流と私有貨車	澤内 一晃	167
東武鉄道の乗車券	長谷川優一	170
78系、8000系時代に見る伊勢崎線と東上線	上田 康晴	197
東武8000系のバリエーション	糸川 零一	206
鉄道3daysハイク 東武電車全線歩き乗り記	根本 幸男	213
東武鉄道 現有車両プロフィール2008	稻葉 克彦	221
東武鉄道 現有系列新造等車号一覧、廃車一覧(1998年度～)		
主要諸元表	資料提供：東武鉄道車両部、作成：稻葉克彦	266
後部車から		298

## 東武鉄道

東武鉄道は東京、埼玉、千葉、群馬の1都4県に463.3kmの路線網を有しており、営業キロでは近鉄に次いで我が国第2位を誇る大手民鉄である。路線は浅草を起点とする伊勢崎線をはじめ日光線、野田線の3線が本線系となるネットワーク、また池袋を起点として埼玉県中央部に展開する東上線と、2系統の幹線で形成されており、通勤・通学輸送、観光輸送、地域および都市間ビジネス輸送と、路線やエリアによりさまざまな輸送を担っている。創立は1897(明治30)年11月1日、2007(平成19)年に110周年を迎えた。

2006(平成18)年度末現在、一日平均の輸送人員は234万人で、前年度比で久しぶりに増加に転じた。資本金は661億6,624万5,267円、本社は業平橋駅最寄りの東京都墨田区押上一丁目1番2号、従業員数は5,073人となっている。

近年、東武鉄道では、明るい話題が相次いでいる。2003(平成15)年には伊勢崎・日光線が地下鉄半蔵門線、東急田園都市線と相互直通運転を開始、運転形態の整備とともに利便性の増進が図られた。千葉・埼玉県下の重要な通勤・通学路線である野田線でも輸送改善が進められた。さらに日光・鬼怒川方面の観光輸送において、国鉄時代からライバル関係にあったJR東日本との相互直通運転を2006(平成18)年3月18日からスタートさせ、東武特急が新宿駅まで乗り入れるという画期的な事業が実現した。乗り入れ以降、特急乗車人員の増加も堅調で、日光・鬼怒川観光の活性化に大きな成果をおさめている。一方、通勤路線として着実な発展を続けている東上線にも、先頃新ライナー導入計画のニュースがあり、東武鉄道の躍進ぶりは止まるところがないといった状況である。

TETSUDŌ TOSHO KANKOKAI  
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan